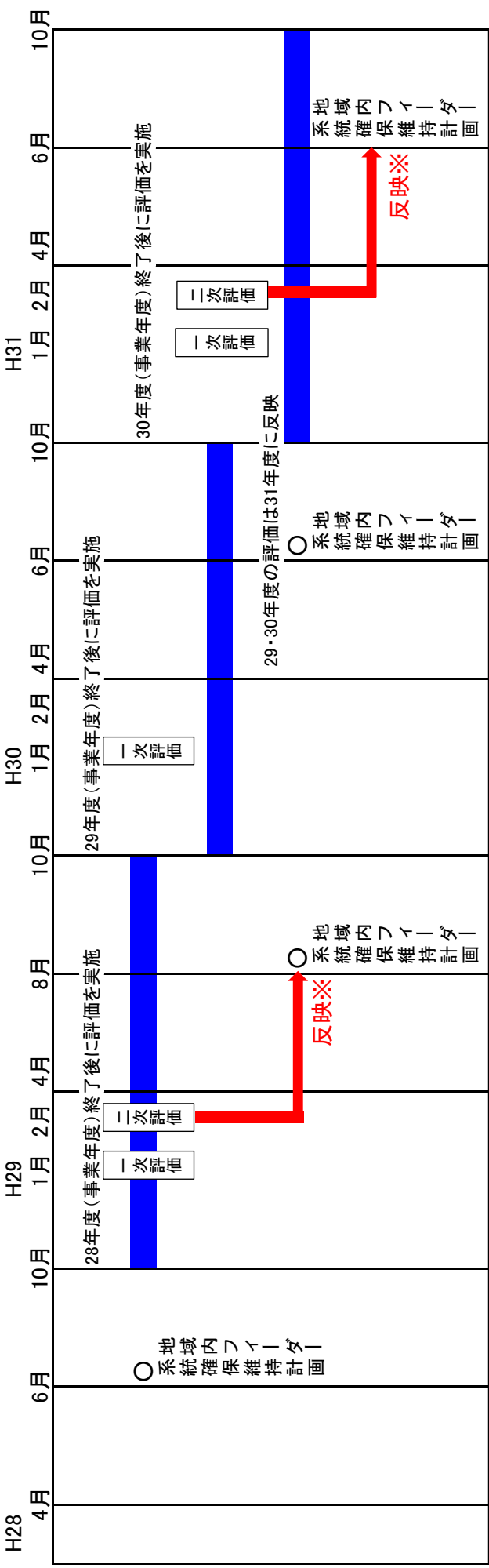


地域公共交通確保維持改善事業・事業評価に対する  
二次評価結果について



# 1. 地域公共交通確保維持改善事業

○地域公共交通確保維持改善計画（北見市では地域内ファイダーシステム確保維持計画）に位置づけられた補助対象事業については、長期的視野に立った評価を実施する必要性や、毎年度の二次評価の件数を縮減することによる評価の質の向上等の観点から、二次評価を複数年度評価（隔年評価）として、翌年度に一括して行うこととなっている。



- ・30年1月末までに交通会議にて一次評価を行い、北海道運輸局に提出。平成31年2月に二次評価が行われ、3月末に評価結果が通知されます。
- ・30年度事業(29.10~30.9)の地域内ファイダーシステム確保維持計画については、29年8月末(予定)までに交通会議の承認を経て運輸局に提出。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成29年1月12日

協議会名: 北見市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内ライダーシステム確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
北海道北見バス(株)	夕陽ヶ丘線 小泉8号ー西8号線ー小泉8号	沿線の高齢者クラブと連携しマイカーから公共交通への転換を促すため、行動プラン法を用いた利用促進策を実施したほか、北見市の身近な交通の情報に掲載したニュースレターを発行し、全戸に配布した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 利用目標365人/日に対し、実績は374人/日と目標に達している。	沿線住民への啓発活動等による利用促進に向けた取り組みだけでなく、全市的なイベント等を活用し市全体の利用促進を実施し、潜在需要の掘り起こしを行い効果向上に努める。
	川東・若松地区 北見ー川東・若松ー北見	沿線高齢者クラブと連携し乗リ方教室を実施したほか、北見市の身近な交通の情報に掲載したニュースレターを発行し、全戸に配布した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 利用目標35人/日に対し、実績は38人/日と目標に達している。	地域住民への利用促進だけでなく、若松市民スキー場や北見ファミリーランド等への施設への移動手段としての利用促進を全市的に行い効果向上に努める。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表  
(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

平成29年2月24日  
北海道運輸局

評価対象事業名：平成27年度地域内ファイダーシステム確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	協議会における事業評価結果			地方運輸局における 二次評価結果	備考
				④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点		
北見市地域公共交通協議会	北海道北見バス株式会社	夕陽ヶ丘線 小泉8号ー西8号 線ー小泉8号	マイカーから公共交通への 転換を促すため、行動プラン 法を用いた利用促進策を 実施したほか、北見市の身近 な交通の情報を掲載した ニュースレターを発行し、全 戸に配布した。	A	A	今後も沿線住民への啓発活 動等による利用促進に向け た取り組みを展開し、潜在需 要の掘り起こしに努める。	(平成28年度分と併せて評 価)	
		川東・若松地区 北見ー川東・若松 ー北見	北見市の身近な交通の情報 を掲載するニュースレターに 当該路線の運行情報を掲 載・発行し、全戸に配布し た。	A	A	今後も利用実態の把握、利 用者の意見聴取等を行い、 利用促進に努める。		

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表  
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成29年2月24日  
北海道運輸局

評価対象事業名：平成28年度地域内ファイダーシステム確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業の実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点		
北見市地域公共交通協議会	北海道北見バス株式会社	<p>沿線の高齢者クラブと連携しマイカーから公共交通への転換を促すため、行動プラン法を用いた利用促進策を実施したほか、北見市の身近な交通の情報を掲載したニュースレターを発行し、全戸に配布した。</p> <p>夕陽ヶ丘線 小泉8号-西8号 線-小泉8号</p> <p>川東・若松地区 北見-川東・若松 -北見</p>	<p>沿線の高齢者クラブと連携しマイカーから公共交通への転換を促すため、行動プラン法を用いた利用促進策を実施したほか、北見市の身近な交通の情報を掲載したニュースレターを発行し、全戸に配布した。</p>	A	A	<p>沿線住民への啓発活動等による利用促進に向けた取り組みだけでなく、全体的なイベント等を活用し市全体の利用促進を実施し、潜在需要の掘り起こしを行い効果向上に努める。</p> <p>地域住民への利用促進だけでなく、若松市民スキー場や北見ファミリールーランド等への施設への移動手段としての利用促進を全市的に行い効果向上に努める。</p>	<p>・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。 ・同系統ともに利用者数が前年度を上回っており目標を達成していることを評価する。 特に、夕陽ヶ丘線については、平成23年の事業開始から利用者350人/日以上と安定的に推移しており、地域に定着していることが伺える。 ・今後の目標の設定に当たっては、利用者数のみならず、地域の公共交通サービス全体の満足度や収支率の改善等、複数の目標を設定し、多角的な観点から、持続可能な事業となることを期待する。</p>	

## 平成28年度北海道運輸局地域公共交通確保維持改善事業 第三者評価委員会の意見等

### 【離島航路】

- 観光客を誘致するためには、継続的に旅行会社等と情報交換や懇談することも有効な手段である。
- 羽幌手売航路のような、日常生活交通の需要が少ない地域においては、観光需要や貨物需要を伸ばしていかないと持続可能な運営は成り立たない。ベースカーゴとしての水産事業をしっかりと展開するべき。

### 【地域間幹線系統】

- 住民の声が、バス事業者に直接届くような仕組み作りは、地域でのコミュニケーションを醸成する上で非常に大事なことである。
- 住民ニーズは、把握することよりも、作り上げていくことが重要。住民に乗ってもらうための方策については、短期的に実施しても評価は出来ないので、長期的に実施する必要がある。

### 【地域内フィーダー系統】

- 交通は派生需要なので、本来需要のないところに交通行動は発生しない。公共交通を利用しないのですむのであれば、それはそれで良いわけで、困っている人がいるときに、タイムリー、且つ、適切にサービスが提供できているかということが大切である。
- より効果的な広報・周知活動とするためには、高齢者等の利用者が、『どのように知らされると乗車したいと思うようになるか』ということ意識した工夫が必要である。
- 調査会社のデータは、ひとつの客観的な指標にはなるが、これから抜本的なサービス改善をしていくときには、地元の方々の意見等に耳を傾けることが大切である。
- 利用者が減少したから安易にルート変更するというのではなく、乗らなくなった人は自動車利用するようになったのか、それとも外出機会が減ったからなのか等、その原因となる部分を詳細に検証する必要がある。

### 【地域公共交通調査等事業】

- 交通路線は、本来の需要である市民の活動とリンクしていないと活性化しない。本来の需要を活性化するような路線や計画を策定すべき。
- 地域の拠点性を仕立て上げ、活動動線とうまく結びつけた上で、交通路線を検討するという発想が必要。大事なのは地域が活性化すること。